



○ ジブリ展

IT ビジネス学科の学生がビジネスアクティビティの授業で「スタジオジブリレイアウト展」の鑑賞やザビエル記念聖堂での撮影実習に行きました。これは経路や経費・学習内容・演習内容等をすべて学生たちが企画し、実施した後に研修のまとめまでを行うという学習です。現実就職した後は様々な企画を立てそれをプレゼンし、上司に認められて実施し、報告をするということが常に行われることでしょうか。今回学んだこと失敗したことを冷静に分析し、これからも多くの経験を積んでほしいと思っています。

さて、私は可能であれば学生たちにアドバイスをするつもりで、その活動に途中から合流しようと山口市まで別便で行きました。山口県立美術館に着いたとき、学生たちはすでに入館していました。私は遅れて鑑賞を始めました。展示されているものの迫力に圧倒されながら見ていると、どんどん学生たちに後れを取っていきます。すべてを見終わるのに結局2時間程度使ってしまい、アドバイスなど全くできませんでした。せつくなので私を感じたこと思ったことをこの紙面に記述し、学校の授業でも伝えたいと思います。

私が中学校2年生の国語の授業を担当していた時の教科書の中に、九州にある「通潤橋」の素晴らしさを伝える解説文の読み取りを行うという教材がありました。田んぼなどに水を通すのに難しい地形の場所で、水を通す橋を先人が苦労・工夫をしながら創り上げたのが「通潤橋」です。その橋の内部には水のトンネルが創られています。定期的に“つまり”を防ぐための豪快な放水を行います。写真などで見かけられた方も多いと思います。この授業を通して私は石積み技術と建造物の美しさに魅了されました。それ以来、私は旅行先では常に石垣を探すようになってしまいました。熊本地震のときに崩れた石垣を見たときはさみしかったですね。また、“一本足で支えている映像”にはびっくりしました。



通潤橋 山都町のHPから

なぜ石垣の話を出したかというと、私は「ジブリ展」の絵の中でも石垣の描写を探していたからです。「ナウシカ」の一場面では、力学的にも正しいきちんとした組み方がていねいに描かれていました。さすがだなと思います。臨場感が素晴らしいと思いました。後の作品の原画では比較的“組み方”は簡略化されているように見えました。これは時間をかけて一つひとつの石を描くことはアシスタントに任せて、もっと大切なことに時間を使おうとしたからだろうと私は勝手に解釈しました。そのような意味から、私は宮崎監督の初期のスケッチの方に、より魅力を感じました。しかし、私個人にとっては作品の枚数が多すぎました。アニメーションができるまでには膨大な量のスケッチが必要だということを実感するにはよい展示方法でしたが、一つひとつをじっくり見ていたら体力が続きません(年のせいかな?)。でも充実した時間でした。 つづく・・・かな?

自校自賛

本校2年生の大島さんを紹介します。彼はいわゆる“熟年”です。一般的な学生と比べると生活経験が豊富なため、講義の内容に関連してたくさんつぶやきます。これが2年生全体の学びを広め、深めることに大いに貢献しています。通常は疑問に思ったり分からない内容に出会ったりしても、それを口に出して表明することはなかなかできないものです。しかし、彼のおかげで助かっている学生がたくさんいると思います。彼は「ユッキー」と呼ばれています。

